

CHAPTER 3

分野別未来像

横須賀の未来につながる
分野ごとの未来像



2030年横須賀の未来をつくる 4つのカテゴリー

ひと

01 福祉

誰もが自分らしく幸せに生きられるまち



02 子育て・教育

いくつになっても育てあうまち



03 健康・医療

健康がすぐそばにあるまち



まち

04 コミュニティ

多様な力でつくるまち



05 防災・安全

つながりと備えが安心を生むまち



06 都市基盤・まちづくり

誰もが暮らしを愛せるまち



しごと

07 産業振興

失敗を恐れない挑戦者を応援するまち



08 観光・文化

ワクワクがあふれ出すまち



09 海洋

可能性に満ちた海を活用するまち



環境

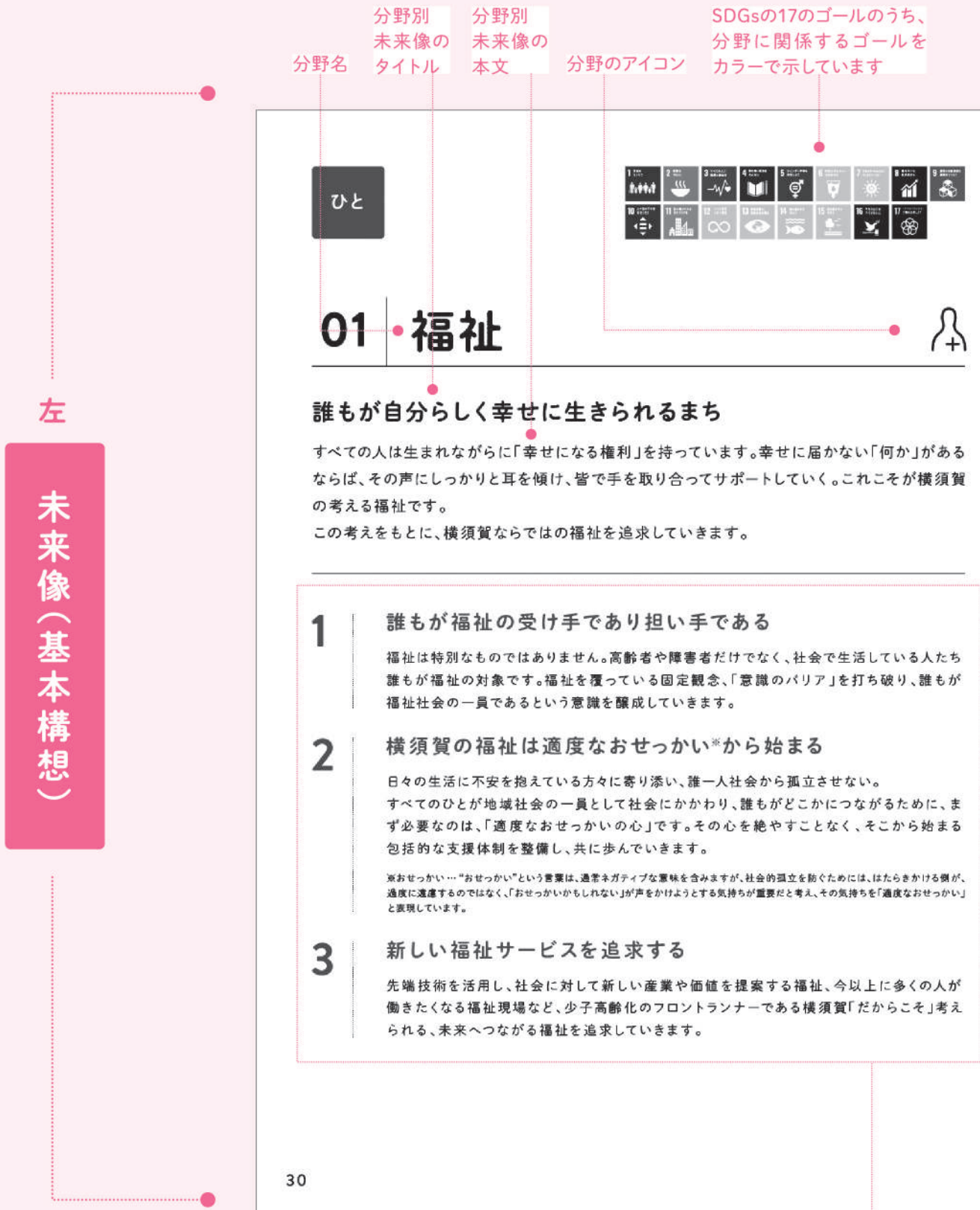
10 環境

「自分ごと」の意識が未来を守るまち



本章の読み方

本章では、10分野ごとに未来像、政策方針や、関連する主な事業、個別計画を、以下のように記載しています。



各政策方針の
タイトル各政策方針に
基づいて実施する
事業の方向性横須賀ならではの
写真には、タイトル
をつけています分野別未来像を
実現するために
必要となる政策の方針**1 地域における支え合いの基盤づくり**

- ① 困りごとや悩みを持って暮らしている人の存在に気づいた人が、地域の関係機関につなげられるよう、情報共有のあり方を検討します。
- ② 困りごとや悩みを持って暮らしている人をどう見守るかを、地域と一緒に考えるとともに、行政、地域といった線引きや、助ける人、助けられる人という垣根をなくして、地域の中で問題を解決できる仕組みを充実させます。



地域の支え合い活動

政策方針

2 包括的な支援体制の構築

- ① 新しく生まれる困りごとや悩みごとに対応した福祉サービスを提供します。
- ② 先端技術を活用し、福祉サービスを必要としている人に、必要なタイミングで情報やサービスが行き届く仕組みをつくります。
- ③ 支援を必要とする人が、地域でその人らしく生活できるようにするため、社会復帰、自立、社会参加の促進についての相談支援体制を充実させます。



3 分野別未来像

ひと

3 多様な担い手の育成・参画の推進

- ① 地域の人が行っている活動を、地域や、他の地域の人たちに伝えることで、これまで参加していなかった人の参加を促し、担い手のすそ野を広げます。
- ② 高齢・障害・子ども等福祉の各分野における人材の育成・確保の支援を充実させます。
- ③ 介護施設など福祉関係の施設で働く人の負担軽減のため、業務の効率化につながる、IoT・センサーや介護ロボットといった先端技術の導入を促進し、誰もが働きやすく、人にしかできない対面型ケアに集中できる職場環境の構築を支援します。
- ④ 福祉等に関する知識や能力を持った人が、その経験や知識を共有できる場をつくり、潜在的な人材やスキルの活用を進めます。

**4 心のバリアフリーの推進**

- ① すべての人がみんなで支え合って生活できる地域社会をつくるために、「共に生き、共に支え合う社会づくり(ソーシャル・インクルージョン)」の考え方や、他人に対する思いやりの心、多様性を尊重する意識の醸成を図ります。



主な実施計画事業:

・生活支援体制整備事業 ・介護予防・生活支援サービス事業 ・行政センター地域生活相談事業
 ・福祉の総合相談事業 ・障害者相談支援事業 ・介護職員出前講座事業 ・高齢者虐待防止事業

関連する主な分野別計画:

・地域福祉計画 ・高齢者保健福祉計画 ・障害者計画

分野別未来像 31

右

政策方針(基本計画)

分野に関連する
主な個別計画分野に関連する
主な実施計画事業

横須賀が描く **ひと** の未来

01

福祉

誰もが自分らしく幸せに生きられるまち



02

子育て・教育

いくつになっても育てあうまち



03

健康・医療

健康がすぐそばにあるまち



朝、車いすで家の近所を散歩した。以前よりまちに段差が少なくなり、車いすの性能も良くなったので、より自由に外出できるようになった。「おばあちゃん、おはよう」地域の小学生があいさつしてくれた。「気を付けて行くんだよ！」横断歩道を渡るまでずっと見守った。このまちでは、誰もがあいさつしてくれるし、声をかけてくれるから、毎日の外出が楽しい！

明日はデイサービスの日だ。最近では、施設でも病院でもロボットが活躍している。施設の職員の方も負担が減ったようで、会話する時間が増えた。お年寄りも職員としてエネルギーにバリバリ働いていて、こちらも元気がもらえる。行くのが楽しみだ！

スマートフォンが鳴って、健康診断の案内が来た。必要なタイミングで、必要な情報が来る。便利になったものだ。それに、電子カルテに私の病歴や、飲んでいる薬が記録されているので、どの病院でも診察がスムーズだ。自宅でもオンライン診療が受けられるし、いざという時の救急医療体制も充実していて、いつでもお医者さんに診てもらえるという安心感を持って生活できている。とは言え、自分でできる健康管理も大切だ。先日、地域の大学生が開催する、体調管理端末の使い方を教えてくれる講座に参加した。これをつけてみると、自分の血糖値や血圧がリアルタイムで分かって、適切な運動や食事を勧めしてくれる。参考にすれば、運動が日課になり、健康的な生活が維持できそうだ。

来週は、小学校で子どもたちに、地域の歴史について話すことになっている。歳をとっても誰かの役に立てるさまざまな場があるのは嬉しい。子どもたちは、私の他にも、外国人、障害を持つ方など、色々な立場の人たちとかかわり合う機会が増えたことで、子どもたちの中で、自然と、個性を認め合ったり、他者を思いやる姿が見られるようになり、結果として、いじめが少なくなったと学校の先生が教えてくれた。横須賀の自然を生かした独自の教育も全国的に注目されていると聞く。

教室では、子どもたちが、当たり前前にタブレット端末を使って勉強していて、先生は児童生徒一人ひとりを見守っている。とても世の中が変わったと感じる。しかし、世の中が変わっても、変わらず大切なものがある。横須賀に残っている人と人とのつながり、地域の絆だ。その大切さ、自分の育ったまちの良さを、次の世代に伝え続けていきたい。





01 福祉



誰もが自分らしく幸せに生きられるまち

すべての人は生まれながらに「幸せになる権利」を持っています。幸せに届かない「何か」があるならば、その声にしっかりと耳を傾け、皆で手を取り合ってサポートしていく。これこそが横須賀の考える福祉です。

この考えをもとに、横須賀ならではの福祉を追求していきます。

1 誰もが福祉の受け手であり担い手である

福祉は特別なものではありません。高齢者や障害者だけでなく、社会で生活している人たち誰もが福祉の対象です。福祉を覆っている固定観念、「意識のバリア」を打ち破り、誰もが福祉社会の一員であるという意識を醸成していきます。

2 横須賀の福祉は適度なおせっかい*から始まる

日々の生活に不安を抱えている方々に寄り添い、誰一人社会から孤立させない。すべてのひとが地域社会の一員として社会にかかわり、誰もがどこかにつながるために、まず必要なのは、「適度なおせっかいの心」です。その心を絶やすことなく、そこから始まる包括的な支援体制を整備し、共に歩んでいきます。

※おせっかい…“おせっかい”という言葉は、通常ネガティブな意味を含みますが、社会的孤立を防ぐためには、はたらきかける側が、過度に遠慮するのではなく、「おせっかいかもしれない」が声をかけようとする気持ちが重要だと考え、その気持ちを「適度なおせっかい」と表現しています。

3 新しい福祉サービスを追求する

先端技術を活用し、社会に対して新しい産業や価値を提案する福祉、今以上に多くの人々が働きたくする福祉現場など、少子高齢化のフロントランナーである横須賀「だからこそ」考えられる、未来へつながる福祉を追求していきます。

1 地域における支え合いの基盤づくり

- ① 困りごとや悩みを持って暮らしている人の存在に気づいた人が、地域の関係機関につなげられるよう、情報共有のあり方を検討します。
- ② 困りごとや悩みを持って暮らしている人をどう見守るかを、地域と一緒に考えるとともに、行政、地域といった線引きや、助ける人、助けられる人という垣根をなくして、地域の中で問題を解決できる仕組みを充実させます。



地域の支え合い活動

2 包括的な支援体制の構築

- ① 新しく生まれる困りごとや悩みごとに対応した福祉サービスを提供します。
- ② 先端技術を活用し、福祉サービスを必要としている人に、必要なタイミングで情報やサービスが行き届く仕組みをつくります。
- ③ 支援を必要とする人が、地域でその人らしく生活できるようにするため、社会復帰、自立、社会参加の促進についての相談支援体制を充実させます。



3 多様な担い手の育成・参画の推進

- ① 地域の人が行っている活動を、地域や、他の地域の人たちに伝えることで、これまで参加していなかった人の参加を促し、担い手のすそ野を広げます。
- ② 高齢・障害・子ども等福祉の各分野における人材の育成・確保の支援を充実させます。
- ③ 介護施設など福祉関係の施設で働く人の負担軽減のため、業務の効率化につながる、IoT・センサーや介護ロボットといった先端技術の導入を促進し、誰もが働きやすく、人にしかできない対面型ケアに集中できる職場環境の構築を支援します。
- ④ 福祉等に関する知識や能力を持った人が、その経験や知識を共有できる場をつくり、潜在的な人材やスキルの活用を進めます。



4 心のバリアフリーの推進

- ① すべての人がみんなで支え合って生活できる地域社会をつくるために、「共に生き、共に支え合う社会づくり(ソーシャル・インクルージョン)」の考え方や、他人に対する思いやりの心、多様性を尊重する意識の醸成を図ります。



主な実施計画事業:

- ・生活支援体制整備事業
- ・介護予防・生活支援サービス事業
- ・行政センター地域生活相談事業
- ・福祉の総合相談事業
- ・障害者相談支援事業
- ・介護職員出前講座事業
- ・高齢者虐待防止事業

関連する主な分野別計画:

- ・地域福祉計画
- ・高齢者保健福祉計画
- ・障害者計画



02 | 子育て・教育



いくつになっても育てあうまち

育つことと育てること、教わることと教えることは、共に人を成長させる素晴らしい機会です。私たちに、人生のさまざまな局面でその両方の機会が訪れます。

そのチャンスを家庭や学校だけではなく、より多くの人に提供し、人生100年時代、生涯を通じて、誰もが成長の喜びを感じられるようなサイクルをつくっていきます。

1 安心して子育てができる環境づくり

横須賀で子どもを産みたい、そして育てたい。そう思えるように、安心して子育てができる環境を実現します。

妊娠前・妊娠・出産・子育て期にわたる、切れ目ない支援を行うとともに、経済的な格差や家庭環境によって、未来ある子どもたちの大切な機会が奪われる事がないよう、取り組みを進めていきます。

2 未来社会を自立的に生きる力を育成します

急激な社会変化の中でも、その変化を前向きに受け止め、自立的に生きるために必要なのは、人間性の豊かさと基礎学力です。

その両方をバランスよく取り入れた横須賀らしい教育を進めていきます。

3 子どもも大人も地域も共に育つ

学校・家庭・地域が一体となり、すべての人が子どもと子育てにかかわって、子どもが健やかに、そして、豊かに育つ環境づくりを進めていきます。

地域には多様な経験を積んだ人が暮らしています。地域資源も活用し、子どもや大人、さまざまな人に教える機会や教わる機会、活躍の機会を提供していくことは、子どもだけでなく、大人も地域も共に育つことにつながります。

4 新たな子育て・教育のあり方とは

オンライン教育の推進など、社会の変化に即した教育環境を整備していきます。また少子化に対応した、新たな子育て、教育のあり方を探求していきます。

1 地域ぐるみの子育て・学び合いの活性化

- ① 学び合いや、子育て支援につながるネットワークづくりを進めるために、さまざまな世代や多様な人々と交流する機会や場を地域に設けます。
- ② 子どもや大人関係なく、生涯を通じて学び続け成長することを目指し、横須賀さらには三浦半島の歴史・自然・文化など、三浦半島全体の地域資源を活用した学びの機会・場をつくります。



美術館でのアートイベント

2 子どもの健やかな成長を地域で育むまちづくり

- ① さまざまな子育てニーズや、ライフスタイルに対応した保育サービスを提供します。
- ② 妊娠する前から子育て期にわたるまで、切れ目ない支援や、子育てをしやすい地域・社会づくりを進めます。また、経済的な格差を含め、特に支援を必要とする子どもとその家庭に寄り添い支援します。
- ③ 子どもたちが将来に希望を持ち、たくましく健やかに育つ力を持てる環境づくりを、市民、事業者、行政など、みんなで一緒に進めます。
- ④ ICTの導入により、子育て支援サービスを向上させるとともに、保育関係施設で働く人の、よりよい職場環境の構築を図ります。



図書館での読み聞かせ

3 自立し、多様な人々と共に社会で活躍できる力の育成

- ① 学校教育の中で、子どもたちが時代や環境の変化に対応するための思考力・行動力や、自分の価値を見出し、人生を切り拓く力を育成します。また、異なる他者への寛容の心を育む実践的な取り組みを進めます。
- ② 子ども一人ひとりの状況に応じて、個別に最適な学習の進め方を考えます。



4 持続可能で魅力ある学びの環境づくり

- ① 教職員の能力・資質の向上を図るとともに、多忙化を解消し、子どもと向き合う時間を十分に確保できるようにします。
- ② 1人1台端末をはじめとした学校教育のICT環境の整備を進めます。
- ③ 社会教育において、オンライン展示・講座など新たな手法を取り入れ、学習者の学ぶ意欲を呼び起こします。
- ④ 少子化や学校施設の老朽化等に対応し、市全体の教育環境の向上に取り組めます。



主な実施計画事業：

- ・地域子育て支援拠点事業 ・保育所等定員拡充事業 ・放課後児童クラブ助成事業
- ・幼児教育・保育無償化事業 ・保育士等の処遇改善事業 ・学力向上事業 ・支援教育ステーション事業
- ・児童生徒相談事業 ・GIGAスクール推進事業

関連する主な分野別計画：

- ・子ども未来プラン ・教育振興基本計画



03 | 健康・医療



健康がすぐそばにあるまち

住み慣れた地域でいつまでも健康で過ごすためには。

充実した医療の提供基盤に加えて、自分にとって最良の主治医は自分であるという考えのもと、一人ひとりの健康寿命延伸の取り組みが必要です。

ライフステージに応じた健康増進の取り組みを進め、ゆりかごから墓場まで、自分らしく安心して過ごせるまちを目指します。

1 健康と充実した医療の提供基盤が安心を生む

市民の健康、医療にかかわる関係機関と積極的に連携を図り、先端技術も取り入れることで、住み慣れた地域で必要な健診や医療を受けつつ、健康に過ごせる仕組みや、感染症対策を更に充実させます。これにより、全ての人の方がより安心して暮らせるまちにしていきます。

2 いくつになっても元気でいきいきと輝く

先端技術も活用し、心と体の健康のための、啓発活動、健康管理、相談体制の充実を図ります。また、スポーツや文化活動等を通じ、人と人とのつながりをつくっていくことで、生涯を通じて心身ともに健康でいられるまちを目指します。

3 ゆりかごから墓場まで

あらゆる分野でのリモート化の進展は、住む場所の制約を無くしていきます。

しかし、この世に生を受け、住み慣れた地域で生涯を終えるためには、充実した医療体制と必要に応じた福祉体制が、地域に必要不可欠なものであり続けます。この二つがある横須賀の強みを今後も守っていきます。

1 人生100年時代に向けた健康づくり

- ① 生活習慣病の予防や、がんなどの疾病の早期発見のため、定期的な健診の受診を促進します。また、健診等のデータや先端技術を活用して、市民が自身の健康状態を把握し、自ら健康を意識した行動がとれる環境づくりを推進します。これにより、健康寿命の延伸を図り、結果として医療費の適正化につなげます。
- ② 健康を保つため、食事や運動などの生活習慣の改善と、生涯を通じた健康活動の実施・継続、社会参加を促します。



2 心の健康と命を守る社会づくり

- ① 心の健康を守るために、ストレスをためない、ためさせない社会づくりの普及啓発と、早期かつ多面的な相談しやすい体制をつくります。
- ② 自殺は「誰にでも起こり得る危機」であることを意識し、誰かに援助を求め、相談窓口があることを周知するとともに、自殺対策を支える人材の育成などを行います。



3 感染症対策と公衆衛生の推進

- ① 新型コロナウイルスを含めた、あらたな感染症の流行を想定した体制づくりや、日常的な感染症予防、公衆衛生の維持を徹底します。



4 安心して暮らせる医療体制の構築

- ① 新市立病院の整備や、市内の医療機関同士の連携をより深めることで、地域医療体制をより充実したものにします。
- ② オンライン診療や医療・介護ロボットなど、先端技術を積極的に活用することで、人は人にしかできない対面型のケアに集中できるようにし、いつまでも地域で安心して暮らせる医療体制をつくります。
- ③ 医療分野における人材の育成・確保の支援を充実させ、市民が望む医療が受けられる環境の整備を推進します。



新市立病院イメージ

主な実施計画事業：

・後期高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施事業 ・がん対策推進事業 ・市民健診事業
 ・精神保健福祉対策事業 ・感染症対策事業 ・新市立病院建設事業 ・地域ケア会議運営及び在宅医療・介護連携推進事業

関連する主な分野別計画：

・健康・食育推進プラン ・自殺対策計画

横須賀が描く **まち** の未来

04 コミュニティ

多様な力で作るまち



05 防災・安全

つながりと備えが安心を生むまち



06 都市基盤・まちづくり

誰もが暮らしを愛せるまち



私たち家族は、数年前、東京のマンションから横須賀に引っ越してきた。私も妻も、リモートワークが中心で、家で仕事ができるスペースが必要になったのと、都心にはない豊かな自然環境に憧れたからだ。

住んでみて初めてわかったこともある。地域の人と人とのつながりの強さだ。東京のマンションに住んでいた時は、近所のことはよく知らなかったし、興味もなかったけど、横須賀に来てからは、昔からある地域でのお祭りや行事に参加し、そこから年齢、性別問わず多様な人々とのつながりが広がっていった。仕事も買い物も大抵の事がオンラインで済ますことができる世の中では、地域における対面での関係性は貴重なようで、東京の友人からは凄くうらやましがられる。最近では「日本一地域が仲良しなまち」と言われているとか。

オンラインで回覧板が回ってきた。来月、地域の防災訓練があるようだ。今年も家族で参加しよう。訓練が行われている避難所の小学校は、耐震性も確保されていて、いざという時に安心だ。訓練は、さまざまな他都市の災害の事例や、横須賀の過去の事例をVR等も使って学び、災害を正しく恐れ、「自分ごと」として考えられるようになるプログラム構成になっている。

学校でも防災教育が行われており、息子を通じて学んだことも多い。また、参加したことで事前の備えや、自分で災害から身を守ることの学びに加えて、近所や地域で助け合うためのつながりもできた。家の周りで助けが必要な人もわかっている。隣の一人暮らしのおばあちゃんは車いすなので、私たち家族と一緒に避難所へ向かうことになっている。後で顔を見がてら声をかけておこう。おばあちゃんにはたまに息子を預かってもらっている。お互い様だ。

友人からは、東京から引っ越して不便はないかとよく聞かれるが、拠点市街地は再開発できれいに整備され、私の住んでいるまちとの間の交通ネットワークも整備されている。自動運転バスなど新たなモビリティが活用されている所もあるようだ。自動運転車の普及により、高齢者の事故も減り、移動の安全性も高まっている。

また、周辺の都市との間の道路事情も良くなった。周辺都市とは競争ではなく、共栄を目指していると聞く。こんなところも横須賀らしいと思う。

横須賀は田舎と都会が程よく共存しているまちだと思う。それを「中途半端。」と言う人もいるかもしれない。しかし、私にはこのくらいが「ちょうどいい。」。





04 コミュニティ



多様な力をつくるまち

リモート化の進展により、オンライン上での交流が活発になる一方、リアルな対面での交流の場面は、今までの職場や学校といった単位から、地域や家族といった単位に変わりつつあります。

こうした流れの中で、地域には、触れ合い、助け合いがある、つながりの強い近助^{*}の精神を持ったコミュニティが求められます。

横須賀では、先人たちがこのようなコミュニティを築き上げてきました。

このつながりを次の世代に受け継いでいく、そして多様性を認め合い、住民自治の力の向上を図ることで、更なる価値をつけていくことが、横須賀の飛躍へとつながります。

※近助… 共助より身近な範囲、向こう三軒両隣で助け合うこと。

1 つながる仕組みをつくる

地域の人々との交流の輪を広げ、そこで出会った仲間と楽しみながら暮らすことは、地域の活力を高め、魅力ある地域の創造にもつながっていきます。

その中で育った多様な担い手と共に、未来につながる持続可能な地域社会を構築する。この仕組みをつくっていきます。

2 多様性が生む、新たな地域の力

私たちは一人ひとり、性別・障害・人種・国籍・門地・年齢、そして考え方も違い、同じものを見ても、まったく違うことを感じます。その多様性を受け入れ、認め合うことで、違いを学びに、力に変えることができます。

この力により、地域社会をもっと豊かにしていきます。

1 地域を支えるコミュニティ機能の充実

- ① 福祉、教育、環境、安全・安心、まちづくりなどさまざまな地域活動の原動力であり、世代間交流の推進役である町内会・自治会や市民公益活動団体などへの支援を充実させます。
- ② 地域の特性や実情に合った魅力あるコミュニティづくりを進めます。
- ③ オンライン上でのコミュニティづくりを進め、新たなコミュニティ形態の構築や、つながりの重層化を図ります。



2 地域の多様な担い手づくりの推進

- ① 地域コミュニティを維持していくために、さまざまな世代や多様な人々が交流する機会や、拠点となる場を積極的につくるとともに、先端技術も活用し、参加しやすい、参加したくなる環境づくりに取り組みます。
- ② 地域活動参加への意識の醸成、地域内の人・世代間のつながりを強化します。これにより、まちづくりの担い手の育成と、ネットワークづくりを促進することで、担い手不足の解消を目指します。
- ③ 地域住民によるボランティアだけでなく、地域内のさまざまな団体や、地域を越えて、市民公益活動団体、企業、学生などを含む多様な主体が連携して、地域活動を支える仕組みづくりを検討します。



スクールコミュニティの活動

3 平和で寛容な社会づくりの推進

- ① 市民に対し「核兵器廃絶・平和都市宣言」の趣旨を啓発するとともに、恒久平和を実現するため、平和思想の普及を推進します。
- ② 人権が尊重され、お互いを認め合い、共に生きる寛容な社会をつくれます。これにより、ジェンダー平等など、誰もが当たり前に分らしく生きられるまち、地域・社会で活躍することができるまち、つながることができるまちを目指します。



平和中央公園

主な実施計画事業：

- ・地域活動支援事業
- ・谷戸地域再生推進事業
- ・スクールコミュニティ支援事業
- ・人権擁護事業
- ・男女共同参画推進事業

関連する主な分野別計画：

- ・人権施策推進指針
- ・男女共同参画プラン
- ・市民協働型まちづくり推進指針
- ・市民活動促進指針



05 | 防災・安全



つながりと備えが安心を生むまち

安全と安心。

大切なのは、それが脅かされたときに、最悪の事態を避けられる体制をつくっておくこと。

平時だからこそできる、日常的な備えや地域のつながりの構築が大事です。

ハード面での都市基盤・都市構造の整備・強化に加えて、この意識を醸成していきます。

1 with災害。だが災害に負けない

近年の風水害の頻発化、激甚化や、高い確率での発生が予測されている首都直下地震などに備え、災害を常に身近なものとして意識する必要があります。

また、その被害は未然に防ぎたいですが、防ぎきることはできないのも事実です。

そこで必要となるのが、被害を最小限に抑える減災の考え方であり、被災しても機能不全に陥らないまちを目指すことです。

そのような新たな観点からライフラインを強靱化するとともに、いかなる状況下にあっても機能する行政体制を構築することで、被災後の速やかな復旧、復興を図ります。

2 地域のつながりが、安全と安心につながる

安全や安心は、災害や犯罪に強い都市構造だけでは約束されません。

日頃から防災や防犯に「自分ごと」として向き合っているか。また、地域の人同士がどれだけつながり合っているか。横須賀市は、地勢的特徴を踏まえて、都市基盤や都市構造の整備・強化を推進するとともに、こうした意識の向上やつながりの構築を促進し、自助や共助などの体制を強化していきます。

1 災害に強い、しなやかなまちづくりの推進

- ① 災害が起こった時に、経済活動や行政活動などを維持していくために、災害に強いライフライン、都市施設、市街地の整備とBCPの策定を進めます。
- ② 災害対策は、予防、応急、復旧・復興といった順番で考えていく必要があります。災害が発生した際に人の命を守り、迅速な復旧・復興を目指すためにはどうすれば良いかを日頃から考え、計画的に体制づくりを進めます。



2 防災・防犯の自分ごと化の推進

- ① 災害や犯罪による命の危険や財産の被害を最小限に抑えるためには、まず、これらを「自分ごと」として意識し、一人ひとりが「自分の身は、自分で守る」という「自助」の認識のもと、行動する必要があります。この意識をみんなに持ってもらうため、災害や犯罪に対する正しい知識と体験を持つことを目的とした、教育、訓練や普及啓発に取り組めます。



消防団の訓練

3 「自助・近助・共助・公助」の連携による安全で安心なまち

- ① 災害や犯罪に強いまちにするため、先端技術も活用し、「自助」の強化を図るとともに、近所の人で助け合う「近助」や、地域で助け合う「共助」を促進します。
- ② 消防・救急体制の充実、警察や自衛隊など関係機関との連携、SNSの活用も含めた正確な災害・防災、防犯情報の提供を推進することで「公助」の体制を強化します。



4 安心して日常生活を送るための環境づくり

- ① 消防・救急・救助、防犯に加え、犯罪被害者等の支援、交通安全、消費者保護などの対策を推進することで、安心して日常生活を送るための環境をつくります。



主な実施計画事業：

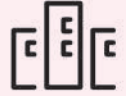
- ・北消防署追浜出張所の移転・拡充事業
- ・佐島漁港海岸高潮対策事業
- ・応急手当市民普及啓発事業
- ・防災DX推進事業
- ・救急高度化推進事業
- ・地域安全安心活動推進事業
- ・犯罪被害者等支援事業

関連する主な分野別計画：

- ・危機管理指針
- ・地域防災計画
- ・国民保護計画
- ・国土強靱化地域計画



06 都市基盤・まちづくり



誰もが暮らしを愛せるまち

まちの姿は人の暮らしを形づくりします。

人口減少、少子高齢化の中、コンパクトなまちづくりの視点を持ちながら、地域資源を最大限に生かした、横須賀独自の個性豊かなまちづくりを進めていきます。また、暮らしや人に寄り添った交通環境の整備も行っていきます。

1 いくつもの暮らし方がある横須賀

拠点市街地での便利な暮らし、海を間近に感じるリゾート感のある暮らし、食や自然を身近に感じる農村型の暮らし、独特の閑静な雰囲気や景観をもつ谷戸の暮らし、美しいまちなみの中で快適に暮らせる住宅団地の暮らしなど、横須賀には多様な暮らし方があります。さまざまな分野でのリモート化が進展した未来を見据え、それぞれの暮らしや地域の魅力を再発見し、最大限に引き出していきます。

2 地域に応じた個性ある交通環境

他都市との連携を活発にする広域幹線道路の整備や、暮らしの利便性を高める市街地同士のネットワーク化により、都市間、地域間のつながりの強化を図ります。また、徒歩、自転車、車、バスなどの交通環境をそれぞれの地域の個性に応じて整備することに加えて、急な坂や階段などの地形的特徴や、高齢化などによる移動の課題を克服する新しいモビリティの活用を支援を行うことで、誰もが自由に移動できるまちを目指していきます。

3 可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合

国際情勢の推移や防衛施設の利用状況等を見極め、効率的な土地利用の推進を図るため、可能な限りの米軍基地の返還と自衛隊施設の集約・統合を国に要請します。また、返還施設は、都市活力の創造に向けて、旧軍港市転換法に基づき、早期に転用します。

1 拠点ネットワーク型都市づくりの推進

- ① 拠点市街地は、再開発等によって都市の機能を集積し、周辺市街地は、生活サービス機能及び居住機能の集積を図ります。
- ② 幹線道路の整備や公共交通網の再編により、拠点市街地と周辺市街地のネットワーク化に取り組みます。



追浜駅前交通ターミナルイメージ

2 地域資源を生かした 多様な暮らし方のあるまちづくり

- ① ゆとりとうるおいのある住環境がより注目される中、その住環境を維持・保全するとともに、先端技術も活用し、各地区での居住ニーズに応じた施策を展開することにより、多様なライフスタイルの選択を可能にするまちづくりを進めます。



3 総合的な交通政策の推進

- ① 周辺都市とのアクセスを強化し、発展・共存していくため、都市と都市をつなぐ国道357号の延伸や、圏央道、三浦半島中央道路の整備などを進めます。
- ② 時代の変化に応じた地域交通の確保や、その地域の特性にあった持続可能な交通体系の構築を進めます。



市内の幹線道路

4 市民生活を支えるインフラの維持・整備

- ① 道路・橋りょうや上下水道などの施設を適切に管理することで、安全・安心な日常生活や社会経済活動を支えます。
- ② インフラのサービスレベルの維持・向上を図るために、先端技術の積極的な活用を進め、限られた財源で効率的な維持管理体制を構築します。



主な実施計画事業：

- ・市街地再開発事業 ・住まい活用促進事業 ・空き家等適正管理支援事業 ・国道357号整備促進事業
- ・スマートインターチェンジ整備事業 ・水道管更新整備事業 ・主要道路計画整備事業

関連する主な分野別計画：

- ・都市計画マスタープラン ・立地適正化計画 ・上下水道マスタープラン2033

横須賀が描く **しごと** の未来

07 産業振興

失敗を恐れない挑戦者を応援するまち



08 観光・文化

ワクワクがあふれ出すまち



09 海洋

可能性に満ちた海を活用するまち



※「未来の物語」は、主に小中学生・高校生アンケート、中学生・高校生ワークショップでの意見を基に作成しています。

私は、横須賀の高校を卒業後、東京の大学に進学し、そのまま東京の企業に就職したが、去年、横須賀の企業に転職して地元に戻ってきた。中規模の企業だが、とても技術力があり、これからの社会にチャンスを見いだせると考えたからだ。

会社では、前職の経験を生かして、主にデジタルトランスフォーメーションの推進を任されている。デジタル化によって、今の業務の中で、だいぶ楽になる部分が出てくるし、ネット販売を活用すれば、市場は日本全国、世界へと広がっていく。

今日は、新ビジネスを検討する勉強会に誘われたので参加した。YRPに立地している企業や、横須賀にあるさまざまな研究開発機関の方と意見交換できたし、リモートワークが進んだおかげで横須賀を拠点にしている若手のIT技術者やプログラマーもいて、話を聞くことができた。少子高齢化が進む横須賀では、介護や医療のICT化をはじめ、他にも防災、モビリティ、ゼロカーボンなど、さまざまな分野でビジネスチャンスがあることと、豊かな自然環境の中で仕事ができることが知られて、近年ベンチャー企業が集まってきている。

色々な分野の人の話を聞くと刺激を受ける。私の会社の技術とも融合できそうなアイデアがあり、挑戦していきたい気持ちがふつふつと湧いてきた。

考えを整理するために、会場の周りを散歩してみた。まちはきれいで、みどりや花も植えられていて気持ちいい。そして、音楽とアートがあふれ、BMXやストリートダンスをしている人や、さまざまな国籍の人々が風景に溶け込んでいる。散歩するだけでワクワクするまちだ。SNSで知ったが、このような文化と、横須賀の自然と歴史をつなげた、横須賀でしか体験できない、オンリーワンの観光が今熱いらしい。オンライン化した世の中だからこそ、人々はリアルで重厚な体験を求めているのだとか。少し誇らしい気分になる。

覚悟が決まった。その場で上司とオンライン会議を行い、すぐに公開プロジェクトを立ち上げた。勉強会で会ったメンバーから次々に参加表明があった。

来週から忙しくなりそうだ。せめて週末は思いっきり趣味のウィンドサーフィンを楽しもう。上達のため、実はワールドカップ出場選手にコーチをしてもらっている。働く場と遊ぶ場がこんなにも近い。贅沢な環境だ。





07 産業振興



失敗を恐れない挑戦者を応援するまち

既存の産業を支えつつ、新たな技術や分野との融合によるイノベーションを促進し、生ずるビジネスの多様性や付加価値を横須賀の強みとしていきます。

また、既存の事業者や研究開発機関等の新たなチャレンジに加えて、これを補完する起業家の挑戦、連携を後押しする体制も整えていきます。

1 まずは既存事業者が輝けるまちであること

地域に根差した農水産業、企業、商店が横須賀のまちを支えています。個性豊かな事業者が元気の横須賀の象徴です。一方、社会は大きくそして早く変化しています。そのような環境の中で、今までの事業を支えていくとともに、新しい技術の活用や人材育成などによって、既存事業者の生産性の向上や新事業の展開など、新たな一歩を踏み出す支援を行います。

2 ビジネスチャンスは横須賀にあり

横須賀には「Society5.0時代」において、社会実装などに必要不可欠な技術を持つ先端技術施設、研究開発機関及び企業が集結しており、国内外の最先端の研究が行われ、多くの優れた研究者が集積しています。このようなフィールドで、まだ誰も挑戦していない未開のビジネスや、実験的なプロジェクトへの挑戦を積極的に後押しし、連携の手助けもしていきます。このように新たなビジネスの創造や、受け入れ環境を整えることで、企業や投資を呼び込み、「稼げる自治体※」へ向け進んでいきます。

※稼げる自治体… 新たなビジネスの創造や受け入れ環境を整え、主に民間の企業や投資を呼び込むことにより、税収の増加や雇用を生み、住民の暮らしの向上を図ることを目的としている自治体のこと。

3 働く人を主役に考える

横須賀の産業を持続可能なものにするため、産業を支える人材の育成、確保を支援していきます。さらに、多様化する働き方や生き方に合わせた労働環境の整備も支援していきます。

1 既存事業者の持続的発展と新たな集積促進

- ① 既存事業者のデジタルトランスフォーメーション等による事業の効率化や新ビジネスへの取り組みを促し、持続的な発展を支援します。
- ② 企業立地のための環境整備等を行い、企業の誘致を図ります。また、進出した企業の周りに他の企業が集まること、既存企業と進出企業とのつながりから新たなビジネスが生まれることを促します。



2 人材の確保・育成による事業継続の支援

- ① 人材の確保と育成を図るため、中小企業と求職者とのマッチング、人材のスキルアップなど企業と働く人の双方を支援します。
- ② 意欲ある企業の廃業を止め、優れた技術やノウハウを継承するため、事業継続や事業承継の支援体制を強化します。
- ③ 横須賀の若者が地元企業の魅力や働くことの魅力について知る機会をつくります。
- ④ 働く意欲のある高齢者が社会で活躍できるよう、国や関係機関と連携して、取り組んでいきます。



3 新しい社会の実現を目指した連携

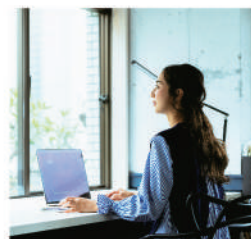
- ① 「Society5.0時代」を目前に控え、多くの研究開発機関が集積している横須賀のポテンシャルを生かし、既存企業の優れた技術力とそれら機関との連携、事業者の参入、起業を促し、新たな研究開発・製品開発等につなげます。



YRP(横須賀リサーチパーク)

4 多様な働き方を可能とする場の整備と誘致

- ① 時間や場所に縛られない多様な働き方が広がっている中で、自然に恵まれた環境、生活利便性などを生かし、ワーケーションやサテライトオフィスなどの場が増えるような支援や、情報発信を行います。



5 魅力あふれる農水産業の振興と付加価値向上への取り組み

- ① 横須賀の農水産物の認知度・イメージアップや、販路拡大、新しい技術の導入などを支援し、生産性や更なる付加価値の向上を目指します。



よこすか野菜

主な実施計画事業:

- ・商業振興対策事業 ・企業等立地促進事業 ・スタートアップ推進事業 ・事業継続支援事業 ・雇用促進事業
- ・新産業集積推進事業 ・横須賀リサーチパーク推進事業 ・よこすか野菜魅力発信事業

関連する主な分野別計画:

- ・中小企業振興プラン ・観光立市推進基本計画



08 観光・文化



ワクワクがあふれ出すまち

横須賀のあらゆる地域資源を生かし、音楽、スポーツ、エンターテインメント等の力を融合させて、身近にそれらがあふれ、まずは市民がワクワクし、地元を楽しみ、まちに誇りや愛着を持てるような仕掛けをつくっていきます。

そこで生まれた熱量は、外にも伝播します。社会情勢やトレンドを捉え、横須賀でしか体験できないこととして、ブランディングや発信を行い、市外からの集客につなげます。

1 横須賀全体が観光のフィールドになる

特定の施設、特定のイベントだけではなく、横須賀全体が観光のフィールドです。あって当たり前だった自然環境、歴史、文化など横須賀の地域資源の発掘・磨き上げを繰り返しながら、横須賀でしか体験できないことを創造、発信していきます。さらに、事業者、関係団体、市民一人ひとりが地元の魅力を認識し、おもてなしの心を持ち、横須賀が一体となって、来てくれた人に楽しんでもらうという意識を醸成します。

2 文化を醸成していく

音楽やアートなどの文化は、さまざまな世界を表現し、人の心を震わせる力があり、それはどんなに社会環境が変化しても、変わることはありません。いつでもどこでも文化を感じ、誰もが文化を愛するまちでありたい。そして、その環境からさらに音楽やアートの深い世界に挑戦するアーティストを応援し、育てる。彼らに表現の舞台を提供し、送りだしていくことは、その地域の活気にもつながっていきます。

3 誰もがスポーツに親しむ機会を

プレーヤーとして、あるいは手に汗握る観客として、誰もがスポーツに親しむ機会をつくっていきます。また、ボーダーレスにさまざまな人が楽しめる多様なスポーツの普及やトップアスリートとの連携・交流にも取り組んでいきます。そして、トップアスリートの活躍を見た人が、自分もチャレンジしてみたい、より上手くなりたいという思いにこたえる環境を充実させ、世界で活躍する横須賀育ちの選手を輩出し、みんなで支え、応援していきます。

1 地域資源のブランド化と発信

- ① 開国や旧軍港都市の歴史、海やみどりの豊かな自然環境など、地域資源の魅力を磨くとともに、ストーリー化を図ることで、確固としたブランド力を築きます。
また、既存の地域資源を活用したエンターテインメントの創出や、さらなる地域資源の発掘など、新たな魅力を創造し、観光客の増加を図り、観光を産業の柱の1つとします。
- ② 横須賀の観光・文化の魅力を多くの人に知ってもらうため、先端技術を活用し、効果的に情報を発信します。



ティボディエ邸

2 観光の担い手との連携による観光基盤の充実

- ① 事業者や市民一人ひとりが自信をもって、観光客をおもてなしすることができる体制をつくります。
- ② 観光ルートの構築や、その周遊性、快適性の向上、また、魅力ある宿泊施設や飲食施設の充実、レジャーや商品の開発、PRなどに事業者と連携して取り組みます。



3 文化の伝承と醸成

- ① 歴史や風土によって育まれてきた大切な文化を保存し、さらに積極的に活用することで、より良い文化を次の世代につなぎます。
- ② 文化に触れる、自ら表現する機会や場を身近につくり、新たな文化の醸成や才能の発掘を促します。



街なかでの音楽イベント

4 誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくり

- ① それぞれの興味や関心に合わせて、スポーツをする・見る・支えることができる、スポーツが身近にある環境をつくり、心と体の健康を支えます。
- ② スポーツ大会や施設の誘致、プロスポーツチームとの交流や新しいスポーツ文化の創造によって、市民に夢や感動を与えると同時に、市外からの集客による地域の活性化に取り組みます。

BMXフリースタイル
ジャパンカップ

主な実施計画事業：

- ・ルートミュージアム推進事業 ・エンターテインメント誘致事業 ・集客プロモーション事業
- ・セールプロモーション事業 ・街なかミュージック支援事業 ・大規模スポーツ大会等誘致事業
- ・ホームタウンチーム活動推進事業

関連する主な分野別計画：

- ・観光立市推進基本計画 ・スポーツ推進計画 ・文化振興基本計画



09 海洋



可能性に満ちた海を活用するまち

横須賀の海は、特別な存在です。

東京湾・相模湾それぞれが特性を持つ景観、豊かな自然、豊富な水産物やそれを生かした食の場、さらにマリンスポーツ、マリンレジャーに適した環境がある一方、歴史遺産や研究開発機関、国内外の物流拠点となる港湾機能も有し、多様な魅力と可能性を持っています。

この海の多様性は、横須賀にしかない独自のものです。そのことを強く意識し、最大限まちづくりに活用するとともに、次世代に引き継いでいきます。

1 東海岸と西海岸。2つの顔を生かしていく

東京湾側に面する東海岸。ここには港湾関係施設のほか、歴史遺産や世界最先端の研究開発機関が存在しており、そこを周遊するための環境整備や研究開発機関との連携を図っていきます。

一方で相模湾側に面する西海岸には、風光明媚な海岸線や、みどり豊かな自然、豊富な農水産物などがあり、より多くの方が身近に堪能できるようにしていきます。

2 海を拓く。そして守る

横須賀の海にかかわる産業には、無限の可能性が広がっています。

港湾機能の強化、利活用を一層進め、市内産業の活性化につながる攻めのポートセールスを行っていきます。また、水産業については、とる漁業だけでなく、水産物の付加価値をより高める取り組みを進めていきます。さらに、歴史や自然、マリンスポーツなど、多様な海の魅力を生かした観光の可能性を探っていきます。

一方で、海を守る。それは活用と共に私たちに課せられた使命です。

海とふれあう機会の創出や、海洋教育などを通じて、海への関心を高めるとともに、海への恩返し的心を醸成していきます。

1 地域経済をけん引するみなとの創造

- ① 横須賀港の立地や将来的な交通網の整備を踏まえ、地域経済に貢献し、国内外の物流を支えるみなとづくりを進めます。
- ② 水産業をとりまく環境の変化を踏まえ、水産物の付加価値をより高め、地域の活性化につながる漁港づくりを進めます。



横須賀と北九州を結ぶフェリー

2 海洋資源を生かした賑わいの創造

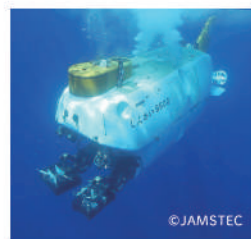
- ① マリンスポーツや歴史、自然、食などの横須賀の海の魅力をかけあわせて「海洋都市横須賀」のブランディング、賑わいの創造に向け取り組みます。



ウインドサーフィン
ワールドカップ

3 海洋産業のスマート化、新産業・新技術の創造

- ① 海運業をはじめとする物流業界での人材不足や漁業者の後継者問題等の解決に向け、これら産業の効率化、発展に資する先端技術の活用等を支援します。
- ② 海洋をはじめ、さまざまな分野の研究開発機関が集積していることを生かし、社会課題の解決に向けた研究の実装、新産業の創出に向け取り組みます。



JAMSTECの有人潜水調査船

4 きれいな海づくり・触れ合いの場づくり

- ① 市民や関係団体等と協力して、海洋ごみ削減に向けた対策や環境教育、海洋教育に取り組みます。
- ② 海域環境の保全等による海の環境再生や、市民が海を身近に感じ、触れ合えるための場づくりを進めます。



ビーチクリーン活動

主な実施計画事業：

- ・岸壁等整備検討事業 ・港湾施設活用推進事業 ・漁港施設長寿命化計画事業
- ・観光振興総務費(マリンスポーツの振興) ・浦賀レンガドック周辺地区整備事業 ・漁業活性化推進事業
- ・海洋関連産業等の創出・集積に向けた調査研究事業

関連する主な分野別計画：

- ・横須賀港港湾計画 ・中小企業振興プラン ・環境基本計画2030 ・観光立市推進基本計画

横須賀が描く **環境** の未来

10

環境

「自分ごと」の意識が未来を守るまち



横須賀に生まれ育って38年。子どもも少しずつ大きくなって、この子たちが大人になっても、地域の環境や地球の環境をより良く残していきたいという気持ちが強くなってきた。

小さいことかもしれないけど、プラスチックごみ削減のためマイバック、マイボトルを使ったり、食べ残しを無くすようにしたり、環境に配慮している企業を応援するようにした。環境問題を自分ごととして考え、できることからやることが大事だと、市の広報で知ったからだ。

さらに、横須賀市は「ゼロカーボンシティ宣言」で2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指している。周りの住宅ではスマートハウスが増えてきていて、私の家でも太陽光など再生可能エネルギーで発電した電気を蓄電池に貯めて、夜でも、雨の日でも、その電気を使っている。また、私が働いているショッピングモールや夫の工場では、施設のエネルギー消費量を見える化して最適に制御を行うシステムを導入している。2050年だと先のことに感じるけど、このような、みんなの積み重ねが、ゼロカーボンの実現につながると思う。

それに、市外から観光に来てくれる人がいるのだから、横須賀のまち全体もきれいになろうという意識をみんなが持ち始めた。その意識がつながりを生み、まちなかや自宅にみどりや花を植えたり、海やまちのごみを拾う活動をする人が増えている。海やまちがきれいになることで、ポイ捨てをする人も少なくなったようだ。地域での環境活動を通じて住民同士の交流も活性化していると聞いた。

また、リモートワークが進んで、横須賀の自然環境の価値に改めて気づく人も増えた。実際にそれを求め、引っ越してきた家族が近所にいる。今度、自然の大切さを学ぶために地域の団体が里山で開催する親子田植え体験があるので、その家族を誘ってみよう。この豊かな自然環境は壊さず将来に残していかなければならないと思う。

学校でも、横須賀の地域資源を生かした環境教育が盛んに行われていて、環境のことは娘の方が詳しいくらい。自然探検で覚えた虫や花の名前や、ごみ処理施設の見学を通じて学んだ、ごみの分別やリサイクルの大切さを、私に教えてくれる。

娘に負けないように、私も環境のことをもっと勉強しよう。その意識がきっと、未来の子どもたちに、より良い環境を残していくことにつながるのだから。





10 環境



「自分ごと」の意識が未来を守るまち

持続可能な社会を実現するために大切なことは、一人ひとりが日常の生活において、環境にかかわることを「自分ごと」として考えることです。

この意識の醸成により、横須賀が誇る豊かな自然環境と、快適な生活環境を将来の世代に引き継いでいきます。

1 自然環境は横須賀の財産である

恵まれた自然環境が身近にあることは、横須賀の大きな魅力です。
リモートワークが当たり前となった今、その価値は更に高まりを見せています。
このかけがえのない自然環境は、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。
この考えのもと、自然環境の保全、創出に取り組んでいきます。

2 脱炭素型社会への移行を目指す

地球温暖化は世界の大きな課題であり、それにより引き起こされる気候変動は、人々の生活、そして生態系を脅かすもので、みんなの意識を一つにして対策に取り組む必要があります。
2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、市民・市民団体・事業者と連携し、横須賀一体で地球温暖化対策に取り組んでいきます。

3 できることから行動する

環境問題を「自分ごと」として考えると、自分の生活の中でもできることが見えてきます。
食品ロスや毎日のごみを減らす、リサイクルを推進する、エネルギーを節約する、自然を大切にするといった心を持つこと。
一つひとつは、小さなことでも、その積み重ねこそ持続可能なまちの未来への切符です。このような身近な取り組みの推進は、社会の創り手の育成にもつながります。

1 次世代に残すべき自然環境の保全と活用

- ① 海やみどりの豊かな自然環境を将来の世代に引き継ぐため、身近な自然環境を保全・創出・再生します。
- ② 保水力など自然がもつ、さまざまな機能を活用するグリーンインフラの考え方を、まちづくりに生かします。



里山での親子田んぼ体験

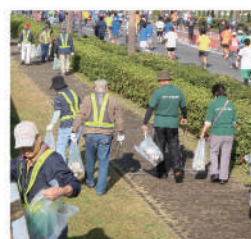
2 地球温暖化への対策と気候変動への適応

- ① 家庭や事業所などで再生可能エネルギーの使用や、省エネルギーに取り組むことを促し、みんなで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量の削減に取り組みます。
- ② 二酸化炭素を吸収するグリーンカーボンやブルーカーボンとして、森林や海藻類等の保全・創出・再生・活用する取り組みを進めます。
- ③ 温暖化による気温上昇、ゲリラ豪雨、生態系の破壊など、環境の変化から生じる影響に適応するための取り組みを進めます。



3 循環型社会の形成ときれいで暮らしやすいまちの推進

- ① 廃棄物の減量化、資源化、適切な処理を行い、「3R+1」を推進することで、環境への負荷を軽減する循環型社会の実現を目指します。
- ② 横須賀に住んでいる人、訪れた人が「きれいなまち」と思えるよう、美化の取り組みを進めます。
- ③ 大気、水質、土壌などの生活環境を保全し、安心して暮らし続けられる、住み良いまちを目指します。



クリーンよこすかの活動

4 環境教育・環境学習の推進

- ① あらゆる人が環境への関心をもち、「自分ごと」として考え、行動し、一人ひとりが持続可能な社会の担い手となるよう、教育機関等と連携した、環境に関する学びの機会・場づくりや、情報発信に取り組みます。



猿島での自然観察

5 公園の整備・活用

- ① 健康、防災、集客、自然環境の保全など、地域にとってどのような公園の機能が必要であるかを見極め、整備、活用を進めます。



ソレイユの丘 リニューアルイメージ

主な実施計画事業:

- ・里山的环境保全・活用事業 ・公共施設再生可能エネルギー化推進事業
- ・ブルーカーボン事業 ・クリーンよこすか推進事業 ・生ごみ減量化推進事業
- ・ゼロカーボンアクションポイント事業 ・身近な自然の保全とふれあい推進事業 ・公園リニューアル事業

関連する主な分野別計画:

- ・環境基本計画2030 ・ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン ・みどりの基本計画
- ・一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 ・生活排水処理基本計画

